

# ト イ レ

～快適なトイレ空間とは？～

48期生

## I テーマ設定の理由

トイレといえば「くさい・きたない・くらい・こわい」の4Kのイメージが有名だが現在のトイレは驚くほどきれいなものもある。そういうトイレの存在をアピールして、もっとトイレの重要性を訴えたいと思い設定した。また、トイレという秘められた部分を垣間見ることによって、世界の色々な国々の新しい面を発見することができるかもしれないと思ったのも理由の一つである。

## II 研究方法

- (1) 文献調査 トイレの歴史について
- (2) アンケート 次の四点について調査
  - ①洋式またウォシュレットの普及率
  - ②トイレのイメージ
  - ③トイレに求められていること
  - ④附中生(3年)のトイレの好み
- (3) 実地調査 いろいろなトイレをみにいき、広さ・つくりなどをみる

## III 研究内容

### 1 トイレの歴史

#### (1) 日本

古代 — 川に流すトイレ=川屋=廁(川の上や傍らにつくられる)  
弥生時代 — し尿をためるトイレ(母屋から離れた小屋がつくられる)  
平安時代 — し尿をためるトイレ(貴族はおまるを用いた)  
・おまる(桶おぼこ・清しよほに・虎こつぽ子)を衝立や几帳で仕切って用を足した所を桶おぼこ殿どのという。〈図1〉

・この桶おぼこ殿どのの底を抜き、床下に糞尿を落とすようになり、さらに床下に便壺を埋めてこれを溜めるようになった。

江戸時代 — し尿をためるトイレ  
・共同便所が生まれた。戸が少ししかないので頭や顔が見えていた。それによって使用中ということを知っていた。〈図2〉

大正3年 — 水洗トイレ(陶器)登場

戦 後 — 水で流すトイレが主流に



図1. 桶おぼこ殿どの

・し尿を肥料として使うのは不潔→海洋投棄・し尿処理場  
徐々に水洗化

- 昭和39年 — おしりを洗うトイレ登場→普及せず  
55年 — おしりを洗うトイレ、ウォシュレットG・ウォシュレットSシリーズの登場「人の、おしりを洗いたい」  
平成七年 — 携帯用ウォシュレットの登場〈図3〉

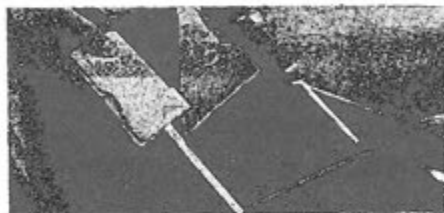


図2. 江戸時代の共同便所

図3. 携帯用ウォシュレット

(2) ヨーロッパ

- 中世 — し尿をためるトイレ（おまるを用いる）  
・おまるの汚物を日本のように肥料として用いるのではなく道路に窓から投げ捨てていた。貴族は穴あき椅子（椅子の下に受け皿や引き出しがついている椅子型おまる）を用いた。 図4. おまる
- 18世紀（後半） — 水で流すトイレ登場  
・英国式トイレといわれる水洗便器をルイ十六世が利用
- 1850年代 — 水で流すトイレ  
・イギリスで大博覧会のために有料トイレ「パブリック・ラバトリー」が設置される→評判は上々
- 1870年代 — 水で流すトイレ  
・フランスで公共トイレの整備が行われる
- 19世紀末 — 水で流すトイレ  
・下水道が改良される→疫病から救済される  
・イギリスでは現在でも見られるような地下の有料トイレ（清掃人が常駐して、いつも清潔なトイレ）が出現
- 1980年代 — 自動管理トイレ登場  
・フランスのドゥッゴー社が自動管理トイレ「サニゼット」を開発。現在はパリに四百基設置されている。〈図5〉  
〈サニゼットの仕組み〉  
2フラン入れるとドアが自動的に開き、使用中は音楽が流れる。使用後は便器、壁面、床を含むユニットが自動洗浄され、殺菌乾燥される。



図5. サニゼット

2 アンケート結果

(1) 洋式、ウォシュレットの普及率

附中生154人に自分の家のトイレについて答えてもらったところ、

|            |      |  |
|------------|------|--|
| Q. 家のトイレは? |      | という結果であった。洋式の普及率は95%という非常に高いものであった。今や和式のトイレの方が貴重になっているようだ。 |
| 洋式         | 146人 |  |
| 和式         | 8人   |  |

しかし、公衆トイレにおいては、そうともいえないようである。私が見に行ったトイレで考えてみると、洋式トイレはわずか18%、この結果には、洋式便器に対する不安が、大きく影響していると思われる。洋式便器は和式便器にくらべて雑菌が付きやすい。そのことが公衆トイレに洋式を少なくしている主な原因であると考えられる。

|                   |     |   |
|-------------------|-----|---|
| Q. 家のトイレはウォシュレット? |     | 左の質問は家のトイレが洋式と答えた人へのみ、答えてもらった。すると、家のトイレがウォシュレットだと答えたのは実に、 |
| はい                | 87人 |   |
| いいえ               | 59人 |   |

60%にのぼる。衛生面でいえばウォシュレットの方が紙で拭くよりいいのだが、私自身、抵抗があって一度も使ったことがない。しかし、ウォシュレットは私の想像よりも多く普及しているようである。

(2) トイレのイメージ

「トイレときいて思い浮かべるイメージを書いて下さい」と書いたら、次のようなイメージがうかびあがってきた。

|                             |
|-----------------------------|
| Q. トイレと言えば? (複数回答)          |
| 1. くさい・くらい・きたない・こわい(4K)・せまい |
| 2. 落ち着く                     |
| 3. 白                        |
| 4. トイレ用品                    |
| 5. きれい                      |
| 6. すすがしい・すっきり               |

1位の「くさい…」というのは何も附中生だけのイメージではなく、一般的なトイレのイメージであるといえる。しかし2、5位の様な良いイメージのものもある。このようなことから、依然としてトイレのマイナスイメージはきえていないが、徐々にプラスのイメージが広がりつつあるということがわかる。

また、「トイレはリラックスできる所であるべき?」という質問もしてみた。

|                      |      |   |
|----------------------|------|---|
| Q. トイレはリラックスの場であるべき? |      | 左の結果によると、77%の人がトイレはリラックスの場所であるべき、といっているがその全ての人々が本当に |
| はい                   | 118人 |   |
| いいえ                  | 22人  |   |

リラックスできるトイレを持っているか、というところではないように思える。それはトイレのイメージが落ち着くという答えをした人がとても少なかったことからうかがえる。また、答えの中に「家のトイレならリラックスの場であるべき」という答えもあった。そういう考えがトイレの設計者にももしかしてあるのではないか。本来公衆トイレこそがリラックスの場である必要が高いのに。

(3) トイレに求められていること

Q. これからのトイレに望むことは？

1. きれい・清潔・明るい
2. 特別な機能をつけてほしい (例えばTV付き等)
3. 臭くない
4. 冷暖房付き
5. 広い  
快適であること

以上の6つが票を多く集めた。これについて私なり分析・解説してみた。

まず1位の「きれい・清潔・明るい」。これは、清掃の徹底によって実現できるのではないかと。本来ならば出来ているはずのことであるから、皆余計気にするのかもかもしれない。

2位の「特別な機能をつける。」これはみんなが、だんだんトイレをひとつの部屋、それも多機能の部屋にと考えるようになってきたからであろう。TV・ビデオや本棚などの設置を望んだところなどがそれをよく表している。

〈特別な機能としてほしいもの〉

1. 本が読める (本棚)  
TV・ビデオ付き
2. 全自動化  
BGMが流れる

左に出たものの他にも个性的でおもしろいものがあったのでその例を挙げてみると、

- ・どこでもトイレ
- ・足の裏のマッサージ
- ・便座がクッション などであった。

3位の「臭くない」。やっぱり、という答えである。トイレ=臭い、というイメージがあるためであろうか。最近では昔ほど臭くはなくなってきた、といってもやはりトイレは臭い。それはなぜか、ということも清掃の不十分さ、そして空気の汚さが影響しているのではないかと。トイレはメイクアップの場になったかと思えば、不良のたまり場になったりと、いろいろな匂いがまざりあう場所である。いろいろな匂いがまざりあい、よどんだ空気をつくり出し、それが臭いトイレを構成するひとつのものとなっているのである。

4位の「冷暖房付き」。これには私も同感である。夏などトイレにいくと暑くてたまらない。冬は冬で寒くてトイレにいくのが嫌になるくらいである。

5位の「広い・快適であること」。日本のトイレの平均的な広さは奥行90cm、幅140cmと、ヨーロッパの奥行140cm、幅94cmに比べればまだまだ小さい。(ヨーロッパのトイレの面積は日本の1.3倍) ということから広いトイレを求めているのだと考えられる。快適というのにも色々あるのでこれについての意見は差し控えておく。

(4) 附中生の理想のトイレ

このトイレを設計するにあたって、参考にしたのは上のアンケートの結果である。では、付属している特別な機能を解説しておこう。

- ①人が入ってくるとBGMが流れる。またリモコン操作も可能
- ②TV・ビデオを見ることが出来る。
- ③あらかじめ指定しておいた香りが人が入ると同時に流れだす。(変更可能)

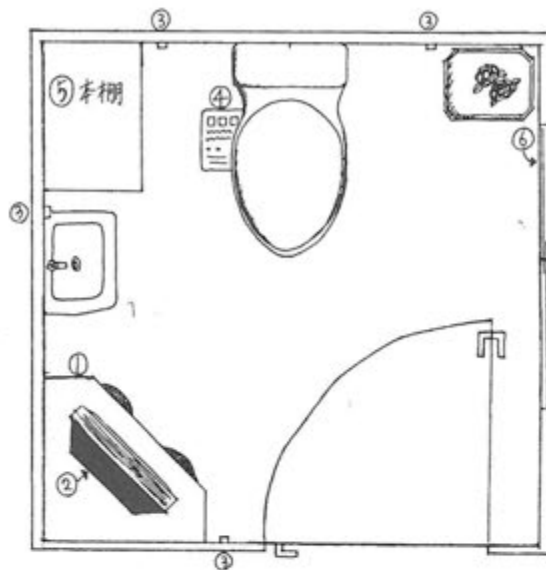


図6. 附中生の理想のトイレ

④ウォシュレット

⑤本だけでなく、小物などをおける棚

⑥大きく開き、光がよく入る窓

このトイレは家庭用と想定して設計した。広さは奥行、幅ともに140cm。ここでは白黒だけだが、便器、及び壁の色を変えるだけで随分とイメージが変わる。例をあげてみると、

- 赤…かわいい、暖かい、燃える
- 青…涼しさ、清潔感、冷静
- 黄…陽気、快活、歓喜
- 緑…安らぎ、平和、柔和

などが挙げられる。このように色を変えるだけでトイレという空間の持つ意味を変えることができるのだ。

3 日本のトイレの現状分析及び提案

(1) 広さ

奥行 90cm × 幅 114cm = 面積 10260cm<sup>2</sup>

(2) 機能

音消し機能や荷物置きなど、随分使い勝手がよくなってきた。しかしその反面、有効に使えていないようなものもある。例えばベビーベッド。風の当たるような出口に近い所にあることが多いため、赤ちゃんは寒いし、おむつを変えるときお母さんが恥ずかしい、と感じる場合もあると思う。つまり、便利になるのはいいが、それを何のために設置したのか、それをきちんと覚えておいて設置場所にも気を配るべきである。

(3) 障害者用トイレがまだまだ少ない。

これからは高齢化社会だということに、障害者用トイレの数が圧倒的に少ない。男子トイレ、女子トイレ、障害者用トイレの3つを必ず一緒に設置していくことが必要になってくると思う。そうすれば、障害者(主に車椅子の入)も安心して外出することができるようになるであろう。

(4) きたないトイレ・きれいなトイレという両極端のトイレにわかれてしまっている。

きれいなトイレというのは主にデパートのトイレや新しく立った建物のトイレ。きたないトイレというのは小さな駅のトイレなど。大きな駅でも端の方のトイレにいくときたなかったりする。こんなに差が出てしまった理由は何か。

①使用の仕方が悪い

自分が汚しても掃除していかない。また、他の人のことを考えてつかわない人が多い。例えばトイレトペーパーを使いおわっても補充しないなど。

②トイレもこの頃考えられてきたから

昔のトイレというのは、表に出てくるものではなかったためきれいである必要が

なかった。しかし、今トイレという空間をその場所の代表のように考える人も出てきたため、掃除も徹底され、1つの部屋ようになってきたのである。でもトイレが全て新しくなったわけではないため、古いトイレと新しいトイレとの間に大きな隔りができてしまったのである。

#### IV 考察

いろいろと調べた結果明らかになったのは次の3つである。

##### 1. 日本のトイレはおくれている。

これは次の四点で全て説明できる。

- ①高齢者のことを考えたトイレが少ない。
- ②合理的なトイレが少ない。
- ③設備を有効に使うことができていない。
- ④日本人のトイレに対するイメージが変わっていない。

##### 2. トイレは進化してきた。

トイレというのは常に、より良いものであるために変化してきた。この変化は進化と呼べるものであろう。そしてこれからのトイレは機能、便利さだけでなくより安らぎを得ることのできるものとして開発していくのが望ましい。そのことによってトイレはこれからも進化していくことになるであろう。

##### 3. トイレは使用者の立場にたって設計すべし。

トイレとは、しばしの間くつろぐ空間であるわけだから、必要なもの（荷物置きや赤ちゃんホルダーなど）があればほっとして気持ちよく、用を足すことができる。

また、女性用トイレは女性が設計すべき、というのが本にかいてあったが、それはそうだと思う。設計する時には何人かのチームで年代の違う人をあつめ、そのチーム内の誰もが納得できるトイレを作してほしい。（色々な年代にとって快適に使用できるトイレをつくるということ）

#### V まとめ・感想

3年間の研究の中でこの研究が1番楽しく実りあるものとなった。今回の研究を発表したことによって少しでもトイレのイメージが向上したのならうれしいかぎりだ。あと20年もたてば、自分の気分に合わせてトイレを変える、なんてことになっているかもしれないと思うとドキドキするし、早くそのような時がきてほしいと思う。そのためにもトイレが生活に与える影響を少しでも示せたようならこの研究は成功だったのであろう。

#### VI 参考文献

- ・松岡武（1983）「色彩とパーソナリティー 色でさぐるイメージの世界」金子書房
- ・小野清美（1993）「女のトイレ事件簿 ナブキン先生 性と生を語る」TOTO出版
- ・日本トイレ協会（1990）「トイレが変る」保育社
- ・TOTOアクア-ヒューマニア'87プロジェクトチーム（1987）「なぜトイレにドアがあるんだろう 空間の常識を破るTOTOの未来戦略」現代書林
- ・TOTO文化交流センター編（1987）「女たちのトイレ」泰流社